

平成20年度 事業評価書

地 域 名	北海道稚内市	選定年度	H17年度	事業規模	小規模事業
まちづくり協議会名	稚内新エネルギー研究会				
モデル事業名	風と燃料電池で築く環境最先端のまちづくり事業				

1. 事業の実施状況

委託事業	事業期間	H17年度	普及啓発事業として、新エネルギーのシンポジウム・フォーラム、市民環境セミナー、定期活動報告会を開催。また、広報誌や新エネルギー啓発パンフレットを作成。
		H18年度	普及啓発事業として、燃料電池設備の公開による環境学習、地球温暖化問題の理解とCO2削減啓発のための市民環境セミナー、シンポジウム、フォーラム等を開催。また、広報誌や新エネルギー啓発パンフレットを作成。
		H19年度	普及啓発事業として、交付金事業で設置した家庭用燃料電池に関するセミナー、市民環境フォーラムを開催したほか、広報誌や教材を作成。
	事業終了後	平成20年度	事業期間終了後のため、事業は実施していない。
交付金事業	事業期間	H17年度	燃料電池設備設置事業として、稚内市が所有する風車を利用して、稚内公園のゲストハウスに燃料電池を設置。
		H18年度	既設燃料電池への増設とヒートポンプ設置事業として、前年度導入の燃料電池の同方式の燃料電池を増設するとともに大気吸熱型ヒートポンプを設置。
		H19年度	環境教育研修施設である「風のがっこう稚内」と公募により選定した「一般住宅」に、LPガス改質型の家庭用燃料電池(0.7KW)コージェネレーションシステム2基を設置。
	事業終了後	平成20年度	事業期間終了後のため、事業は実施していない。

2. 評価・分析

①事業の特色・モデル性	<p>今後の水素社会の構築を視野に入れながら、豊富な地域資源である風力などの自然エネルギーの活用を進めていこうとするものであり、多くの関係者が熱心に取り組んでいる。風力発電の電力で水を電気分解することにより得られる水素を燃料電池に用いることにより発電するという先駆性が見られる。他にも環境教育研修施設「風のがっこうわかない」の建設・運営を計画しており、風、太陽光、バイオ等の新しい活用システムの提案や環境教育の場として利用するなど、市民等の環境意識の向上が期待できる。</p>		
②環境保全効果 (二酸化炭素排出削減効果等)	二酸化炭素排出削減効果	備 考	
	目 標 値	29.90	H16年度、H17年度、H18年度事業分
	実 績 値	1.58	H16年度、H17年度、H18年度整備施設のH19年度稼働実績
	(目標値・実績値単位:t-CO2/年)		
③経済活性化効果	<p>・風力発電を利用した燃料電池設備の設置事業 昨年度同様、達成率は目標値の5割程度に留まっている。原因として、設備を設置した稚内公園が冬季間に完全閉鎖した点や、足湯設置工事に伴う燃料電池運転の停止、不具合調査による停止など、運転の絶対時間が縮減されたことが挙げられる。今後は運転可能時間の確保及び、今後の目標設定に配慮し、目標値を達成するよう努力されたい。</p> <p>・家庭用燃料電池コージェネレーションシステム設備設置事業 燃料電池の実運転時間が計画に比べて少なかったこと等により、達成率は低くなっている。今後は運転時間の改善等を図り、二酸化炭素削減目標値の達成に努められたい。</p>		
	<p>・風力発電を利用した燃料電池設備の設置事業 昨年度同様、風力エネルギーを利用した水電気分解方式による燃料電池の発電に伴う、購入電力費の削減効果を得ることが出来ている。</p> <p>・家庭用燃料電池コージェネレーションシステム設備設置事業 設備を設置した一般家庭で、電力費削減の一方で、LPガス代が前年度を上回り、総額では燃料費が増加する結果となっている。</p>		
④その他			